



第65号
令和2年2月28日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
URL <http://www.igukou.com>
発行責任者 鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社



祝創立百周年

同窓会会長

佐藤吉市

会員の皆様には令和2年の新春を穏やかに迎えられましたこととお喜び申し上げますと共に、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。令和元年度、母校からの卒業生75人が同窓会に入会することになります。心から歓迎すると共に、大きく羽ばたき、伊具高校の名声を広めて頂きたいと希望するものです。

5月に平成から令和と年号も代わり、穏やかな年と願っておりましたが、令和元年10月12・13日の台風19号による、角田市・丸森町にとって今まで経験したことのない大雨により、甚大な災害が発生しました。特に丸森町の被害がひどく、堤防が決壊し、床上床下の住宅被害、全壊・大規模半壊等の被害が発生し、多くの町民の避難生活が12月まで続きました。残念なこと

にこの発災で、10名の方が亡くなり、まだ行方不明者が1名となっており、災害を受けた中には同窓会会員も多数おられます。亡くなられた方に心から哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

母校の被害状況ですが、本校と農場の間には川があり、上流の降雨で氾濫し、農場ハウス内に土砂が流入滞積しました。心配しておりますが、農場職員の懸命な除去作業により、今年に入って土砂の除去が完了しつつあり、次年度の作付けに向けての見通しがついたようです。職員の努力に感謝したいと思います。また、役場前の野球部の練習グラウンドですが、町に要請により応急仮設住宅に提供し、12月21日から66世帯が入居

しており、災害復旧に向けて母校もいろいろ協力いただきました。町内の災害復旧も多くのボランティアや自衛隊、全国からの多くの自治体職員様の応援により、何とか生活に落ち着きが見られるようになりました。また、これからの復旧・復興が大事になっていく中、12月26日、天皇・皇后両陛下が甚大な被害で被災されたとして、即位後初となる災害被災地訪問において丸森町を訪問して頂きました。両陛下には雨の中、被害を受けた場所を御視察、伊具高グラウンドの仮設住宅では、自宅を失った被災者に御見舞いの言葉を頂きました。多くの町民も元気づけて頂きました。

二〇二〇年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本に世界から多くのアスリートや応援の外国人の方が訪れることでしょう。聖火リレーもまもなく始まります。日本のアスリートたちの活躍に期待したいと思います。

オリンピック終了後は、我が母校創立伊具高等学校の創立百周年記念式典が待っております。日程は令和2年11月6日(金)と実行委員会にて決定しております。近日中に実行委員会を開催し、記念式典の内容を決める予定になっておりますので、同窓会皆様の更なる御協力・御支援を賜りながら、一連の事業の成

功に向けて努めて参りたいと思えます。同窓会・母校PTA・高橋校長先生始め教職員が一丸となって頑張りたいと思います。母校においては地域に根ざした高校として、町内の行事等にも積極的に参加しており、また、電気機械部のエコラン全国大会出場をはじめ、総合学科として各系列毎に様々な系列の大会に出場しています。

令和元年7月17日(水)に、丸森町議会と伊具高校の生徒との議会懇談会として、3回目の「住みたい町を作るワークショップ in 伊具高 生徒と議員との懇談会2019」が開催されました。懇談会形式で2年次生徒28名と議員14名が7テーブルに分かれ、ワークショップ形式で活発な意見交換を行いました。テーマは「自分が住みたいまちは、どんな町」、サブテーマは「①あなたが町長だったらどんな町にしたいですか。②将来、地元に住むには何が必要だと思いますか。③地域のためにあなたができることは何ですか。」です。話し合いの結果、「①あなたが町長だったら」には、「人と人とのつながりや若者と高齢者が助け合い協力し合い、地域を盛り上げる。」等、「賑わいと笑顔あふれる元気な町、暮らしやすい元気な町、住みよい町を目指す。」「②将来地元に住むには」には、「人が暮らし

ていくために必要なもの、スパー・郵便局・コンビニ・娯楽施設・道路などが整備された町にする。」等、「③地域のためにできること」には、「協力のまちづくりに参加する。」「人に直接できるようなボランティアをする。」等々の意見が出ました。最後に、伊具高校生からの感想として、「町についてここまで深く考えることはなかったので、町への関心が深まった。」「今回の話し合いで出た意見を取り入れ、住みよい町を作りたい。」等、たくさんの方の参考になる意見を頂き、令和2年度も開催することです。

今般、各支部総会には学校と同窓会役員が出席させて頂きましたが、その懇談会の中で同窓会として百周年に協力したいとの意見を頂き、検討した結果、百周年を記念して「懸垂昇降装置」及び「校訓 質実剛健 健康着実」・「祝 創立百周年記念式典」を記した懸垂幕を贈呈し、校訓の教えを伝えると共に、記念式典を祝う懸垂幕を掲げるという案に、同窓会の臨時総会で賛同が得られ、同窓会会員の皆様に協賛趣意書を配布させて頂いております。同窓会支部役員並びに会員の皆様には趣旨をお酌み取り頂き、特段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(農業20回・大内支部)



地域とともに歩む

校長 高橋 光 弘

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。歴史と伝統を誇る宮城県伊具高等学校で、常に同窓会の皆さまから温かいお言葉を頂戴しながら校務に励んでいます。

8月4日の本部同窓会総会・懇親会、角田支部総会・懇親会、大張支部総会・懇親会、小斎支部総会・懇親会、大内支部総会・懇親会、臨時総会等に出席させていただき、学校の近況や生徒の活躍等を報告させていただきました。さらに皆様から貴重なお話を伺うことができましたことに改めて御礼申し上げます。臨時総会では創立百周年記念に合わせて、生徒の活躍や校訓「質実剛健」「穩健着実」を掲げる懸垂幕設置装置と懸垂幕について御協議いただき趣意書をまとめていただきましたことに心より感謝申し上げます。

進と広報活動の充実」、「(2)主体的・対話的で深い学びにつながる授業力の向上と基礎学力の定着」、「(3)基本的な生活習慣やマナーの定着指導と活気ある学校づくりの推進」、「(4)希望進路100%達成に向けた組織的な取組」、「(5)清掃指導の徹底と心身の健康管理の推進」、「(6)4系列の特長ある教育活動の推進と地域連携の充実」、「(7)2020年創立100周年記念事業に向けての準備加速」を掲げて取り組んでおります。しかしながら、台風19号の被災により本校の教育活動にも多大な被害を受けました。幸いにも生徒・教職員全員が自ら命を守ることができたことは何よりでした。教職員全員で生徒の安否確認や通学路の安全確認、生徒の家庭訪問と電話連絡授業再開に向けての準備と危機対応に精一杯取り組みましたが、5日間の臨時休業、授業再開後も5分短縮授業(12月5日まで)で対応せざるを得ない状況にありました。川向農場の甚大な被害については別頁を御覧ください。そのような中においても災害に負けずに取り組む生徒

たちの素晴らしい姿がありました。臨時休業中のボランティア活動や陸上競技部の駅伝県予選会への参加、情報系列の産業教育フェア(11月10日県庁、勾当台公園で開催)での収益金や募金を町に寄付させていただいたことや町づくりゼミによる花壇植栽活動など生徒が積極的に町のために取り組む姿等々を新聞やテレビに取り上げていただきました。生徒・教職員が一丸となって町を元気にしたいという思いと遠くからボランティアに来ていただいている方々を綺麗な花で迎えたいという思いで行動していることに胸が熱くなります。

今年度も「学校通信『阿武隈川は洋々と』」(カラー版 <https://igumyswan.ed.jp/>掲載)を発行し、丸森町・角田市内小中学校や関係機関、地元丸森町内の行政区、今年度からは角田市にも御協力をいただき市内行政区に回覧させていただきました。近況報告させていただいていますが、生徒の頑張りは素晴らしいです。生徒の頑張りや素晴らしいですが、生徒達を指導しサポートする教職員の粘り強い取り組みの賜です。具体的な活動はホームページで御覧ください。今年度は県の「魅力ある県立高校づくり支援事業」により「地域に貢献する人材を育成する」をテーマに、「丸森・もりもり伊具高魅力化プロジェクト」を推進しております。丸森町役場

企画財政課様、一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY 様、本校との連携事業として、推進委員会を設置し町長保科郷雄様を委員長に「地域や地元企業と連携し社会に開かれた教育課程の推進」等を目標に取り組んでおります。全国的にも高校の統廃合が進む中ですが、この伊具地区に無くてはならない高校として、地元の小中学生が地元の高校で学びたいという気持ちを、持つには、本校の特色を活かし、さらに魅力化を図らなければなりません。町議会議員の皆さまと2年次生徒との「住みたいまちづくりワークショップ」を今年度も取り組ませていただきました。生徒たちは丸森町をこんな町にしたいという熱い思いを持っていきます。このような高校生が丸森町を元気にしていきます。これからの高校は県立高校でも地元自治体や地元企業とのさらなる密な連携が無くてはならないものと確信しています。最後になりますが、今年の11月6日には創立百周年記念式典を挙行いたします。同窓会の皆さま、PTAの皆さま、地域の皆さまとの連携をさらに進め、記念事業成功に向け努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



令和元年度総会報告

8月4日(日)午後3時
(評議員会午後2時)
国民宿舎あぶくま荘



◎協議事項

- 一 平成30年度事業・会計報告並びに承認
- 二 令和元年度事業計画・予算案審議
- 三 役員改選について
- 四 母校創立百周年記念事業について
- 五 その他

◎懇親会

国民宿舎あぶくま荘 午後4時
今回の加者は総会45名、懇親会40名となりました。今年度は役員改選の年であり、また、母校創立百周年記念事業など重要議題があることから、総会前に評議員会が開催され、総会提出議案について審議されました。総会では昨年度事業および会計決算報告、今年度事業計画および会計予算案が審議されたあと、役員改選では母校創立百周年を

祝受章

瑞宝単光章

引地孝信様
(農業18回・筆甫支部)



引地孝信様は、丸森町消防団副団長として町の防災活動に尽力され、瑞宝単光章を受章されました。

引地様は25歳の時から34年間消防団に入隊し、筆甫地区を中心とした消防活動に尽力されてきました。在任中、地区内での大きな火災はなかったそうですが、昭和42年春に母校を卒業した矢先の火災は忘れられない出

来事だそうです。当日、春の消防演習が丸森で行われており、地区内に消防団員が誰もいない最中の火事で、1kmほど離れた家屋にも飛び火し、住宅7軒と山林が燃え、火事の恐ろしさを身をもって感じたそうです。この経験から筆甫地区ではそれ以降、毎年火事のあった5月1日に婦人防火クラブが各家庭を巡回して、現在もかまど検査と安否確認を行っています。在任中は1日半で420mmもの豪雨が降り、地区内の川があふれたことがあったそうです。この時は団員が巡回したり、災害に備えて待機したりと大変な状況だったようです。消防団員でも勤め人で地区から離れている人が多く、引地様が常に先頭に立って消防活動を行ってこられました。

母校創立百周年を記念する協賛のお願い

◎協賛願い

- ・懸垂幕昇降装置一式
- ・懸垂幕 2枚

「校訓 質実剛健 穩健着実」

「祝 宮城県伊具高等学校 令和二年創立百周年」

◎協賛方法

- ・金額 会員お1人様あたり1口以上 (1口3,000円)
- ・納入期限 令和2年3月末日
- ・納入方法 郵便局備え付けの青色で印刷されている振込用紙により納入願います。(甚だ勝手ではございますが、振込手数料はご負担願います。)

振込先 口座記号・番号 02250-2-144164

加入者名 宮城県伊具高等学校同窓会

なお、ご面倒でも通信欄に「伊具高校創立百周年を記念する同窓会員協賛金」とご記入ください。ご協力よろしくお願いいたします。

親睦を深め母校を支える13支部

本会には県内外に13の支部があり、母校と連絡しながら会員相互の親睦を深め、母校の発展と地方文化の向上を目的として活動しています。近年は母校創立百周年を間近に控え、支部の活動が活発になり、多くの方々に参加いただいています。創立百周年の記念すべき日を多くの同窓生の方々に祝っていただくためにも、さらに多くの皆様にかかわっていただきたいと考えています。支部の活動に興味をお持ちの方は、同窓会事務局 鈴木英晴 (Tel.0224-72-2020) までご連絡ください。

本会の支部

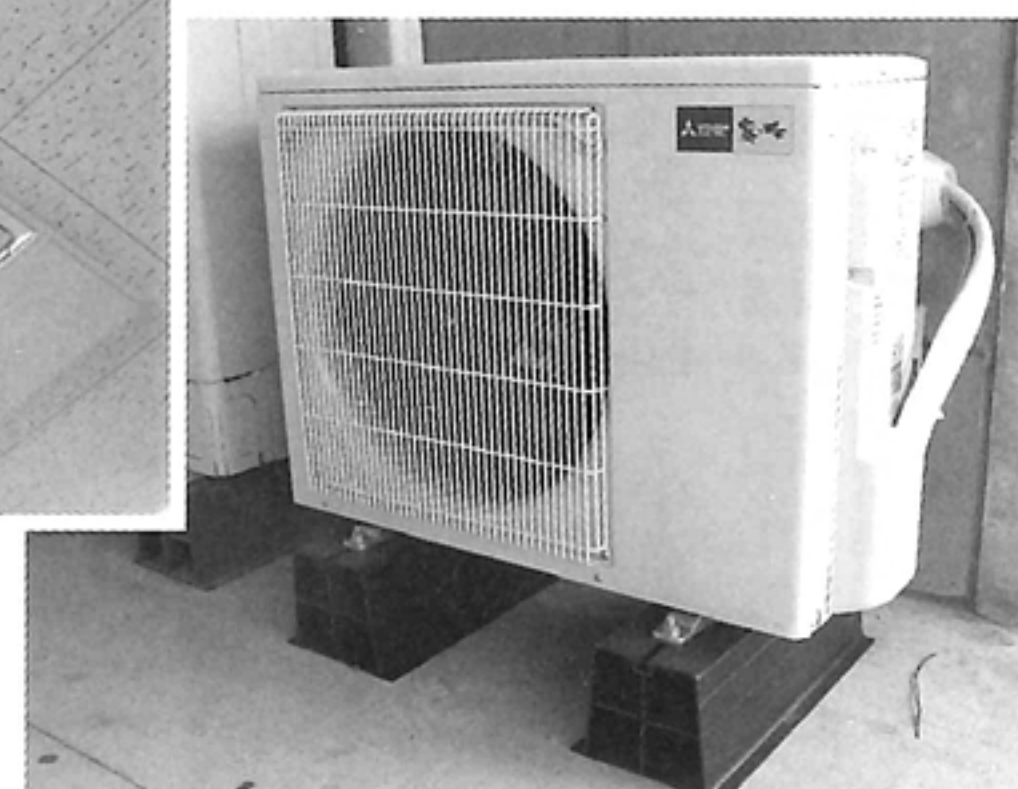
丸森 金山 大内 筆甫 小斎 大張
耕野 舘矢間 角田 柴田 白石
仙台 関東

母校への贈り物

横山博昭様

(農業19回・小斎支部)
小斎支部長の横山博昭様から母校に2台の冷暖房装置(エアコン)を寄贈いただき、調理準備室と原動機準備室に設置していただきました。これにより真

高校時代は根っ子入農場での豚の世話や搾乳した牛乳を瓶に詰めて販売したことが思い出だと話してくださいました。引地様はその誠実な人柄から、現在は区長として災害に備えての避難指示や安否確認などを行い、地区の中心となって活躍されています。若者が減る中で、引地様の役割はますます重要になっていくようです。お体を大切に過ごしてください。(事務局 鈴木英晴)



(事務局 鈴木英晴)

夏の暑い中でも、生徒・職員ともども快適に学習を進めることができると思います。ありがとうございました。

創立百周年への協賛を臨時総会で可決

(事務局 鈴木英晴)

10月26日午後2時より、母校雁歌会館を会場として、臨時総会が行われ、同窓会として創立百周年を記念する協賛について審議、可決されました。

これは同窓会として「懸垂幕昇降装置」並びに「懸垂幕」を母校に贈呈することとして、会員および企業関係者に協賛をお願いするものです。台風19号の甚大な被害が発生しているなかではあります。ご協力いただきますようお願いいたします。

支部だより

角田支部総会

小形 とき子

(生活20回・角田支部)

令和元年5月26日(日)、角田市本町「中華料理かんの」の2階で、令和元年度宮城県伊具高等学校同窓会第5回角田支部総会・懇親会(支部長・湯村勇)を開催しました。角田の5支部が統合して5回目になります。

角田市長の大友喜助様、丸森町長の保科郷雄様にご案内を差し上げたところ、快く出席して下さいました。また、佐藤吉市同窓会長、学校からは校長先生、教頭先生、同窓会事務局の鈴木英晴先生、池田友利先生にも出席していただきました。大張支部長の大槻孝雄様、館矢間支部長の斎藤誠様にも毎年快く出席



していただいております。いつものように校歌を声高らかに会員全員で斉唱し、総会を開始しました。

高橋光弘校長先生、佐藤吉市同窓会長からご祝辞をいただき、議事に進み、平成30年度の事業・会計報告、令和元年の事業計画の提案があり承認されました。

その後の懇親会では、角田市長の大友喜助様、丸森町長の保科郷雄様からご祝辞を頂戴し、楽しい時間になりました。会員の中から第5代同窓会長・前角田支部長の佐藤三馬様の家から見つかったという、伊具高校の校歌が制定されるまでの書類の紹介がありました。校歌の作詞者白鳥省吾先生へ「作詞、作曲(古関先生) 共に予算参万円でお願いできませんでしょうか」という内容の依頼文書と、古関裕而先生からの「白鳥先生よりお話があった校歌ができたので送ります」という手紙でした。また、他の会員からは、福島市にある古関裕而記念館から手に入れた「古関裕而・作曲・校歌・応援歌・県市町民歌(東日本)」という資料も紹介があり、確かに伊具高校の名も記録されていました。令和2年上期のNHKの朝ドラ「エール」は、我が母校の校歌の作曲者のご夫婦をモデルにした物語だそうです。そんな話題で懇親会も盛り上がりました。令和2年度の第6回角田支部総会は、令和2年5月31日(日)

に開催する予定です。

令和元年度

大張支部総会開催

大槻 光一

(農業18回・大張支部)

創立以来、本年度で百周年を迎えることに心からお喜び申し上げます。

平成から令和に移行した7月21日、あぶくま荘において大張支部総会が、校長先生・鈴木先生、更には同窓会長・副会長

のお三方、公私共にお忙しい中、御来賓として丸森町長保科郷雄様のご臨席を賜り、支部長大槻孝雄様の挨拶で総会に入り、予定された議案が満場一致で承認されました。席上2020年11

月予定の百周年記念事業に対し現状報告と今後の進め方等の説明があり、出席者全員が理解をし、決意を新たにしたいところでありました。その後、会場を移動

し懇親会となり、昭和42年卒業までの学び舎の当時のことが鮮明に甦り、農業科67名・生活科ABの2クラス、そして商業科と1

学年二百数十名であったと思ひ出しました。多人数の中での厳しさや、いかにまとまり各種大会

や事業に向き合い成果を上げていくか、担任の先生や各教科の名物先生方の御指導をいただき、

校訓である質実剛健・穩健着実を実践の中で培うことを身につけ

させていただき、現在に至つてい

ると思います。

令和元年10月、台風19号による甚大な被害で農場等が流出してしまい、実習等にも支障をきたしているとのこと、このような

状況の中でも校長先生を始め教職員の方々、そして在校生の皆様方が大きな目標に向かい歩んで行かれますようお願いを申し上げ、報告とさせていただきます。



小斎支部、

移動総会開催

松本 幹郎

(農業20回・小斎支部)

今年度の総会は令和元年8月24日にあぶくま荘で開催しました。17名の参加をいただき、小斎支部としては初めての移動総会となりました。同窓会本部及び母校からは佐藤同窓会長、高橋校長先生にご臨席を賜り、来年の百周年記念事業に向けた取

り組み状況を含めた祝辞が述べられました。

横山支部長の挨拶では、初めての移動総会であり、親睦・交流を深められるとともに、母校の百周年は盛大に執り行うことが大事であると述べられました。また、同席した顧問各位からも大きな盛り上がりとなるようにしなければならぬとの檄をいただきました。

会場は、参加者のエネルギーと力のもった会話で熱くなつて大いに盛り上がるともに、飲み物ばかりがどんどんはかどり、その様子を眺める事務方の不安な表情がなぜか気になりました。

和気あいあいの中で話も弾み、時の経つのを忘れるほど予定された時間があつたという間に過ぎて、参加者一同、改めて母校の節目を飾る記念事業に対する期待の大きさを感取った二日となったものと存じます。移動総会となったことで地元開催とは違った雰囲気もあり、今までになく母校への思いが強く感じられた時間となったのかもしれない。

小斎支部も活動再開となりましたので、この流れに棹さしてもっととたくしていけるように展開して参りたいと思います。そして郷土に根ざす我々が、同窓生として連帯を図りながら地域コミュニティづくりを資するとともに、その活動をとおして母校の発展につなげられるようお願いながら帰途につきました。

大内支部総会より

菅野 憲一

(定農19回・大内支部)

農繁期の合間、令和元年9月7日(土)午後7時より、地区内「松寿司」において大内支部総会が開催されました。19名の方に出席いただき、始めに菅野支部長より挨拶をいただき、若干の母校の状況についてお話があり、次いで佐藤吉市同窓会長から各支部の活動及び来年11月の創立式典について、高橋光弘校長先生より母校在校生達の活動状況についてお話をいただきました。いよいよ次年度に迫った創立百周年記念式典については、鈴木事務局長より実行委員会の動き、並びに母校創立百周年を記念する贈呈品準備のための協賛等についてお話をいただきました。今後、式典開催に向けて各支部共に一致協力し、百年という輝かしい歴史をここに刻めることの嬉しさを会員一同喜び喜ぶたいものです。

議事については、菅野支部長が議長となり平成29年度以降の事業報告並びに収支報告が関係幹事より報告・承認され、役員改選についても話し合いが行われましたが、改選期の令和2年3月に再度話し合い決定すること、会員の方々より了解を得ました。支部総会を開催するたびに思うこととして、1万5千人近い同窓生を輩出した我が母校伊

具高校が、一生のうちの僅か3、4年間ではあるが、多くの思い出を作り与えてくれたことへの感謝は、会員共通するものと思えます。ただそれだけに総会への出席者が少ないことは残念に思います。一役員として企画することの難しさを感じると共に、1人でも多くの出席者が増える総会を考えていきたいと思えます。

百周年を機に、老いて益々若き心を持ち続け、年齢を超えて多くの同窓生と語り合えることを楽しみに大内支部総会を終えました。

次回、支部総会は記念式典前に開催されることになるかと思えます。大内支部会員の皆様の出席をお待ち申し上げます。

同級会だより

夏の夜のつどい及び雁歌S46会

濱 須 寿美子

(生活22回・角田支部)

子育ても落ち着き、当時のクラスの友に会いたくなり、1冊のファイルを作成。毎年8月下旬に同級会を計画し、「夏の夜のつどい」と命名。最初は、食事会から始めました。回を重ねるごとに宿泊するようになり、横浜・山形の銀山温泉・作並温泉・秋保温泉など、その年の幹事担当の企画で実施、担当の方

も丸森・角田・仙台と持ち回りにし、40回位になります。現在は、両親の介護もあり、日帰りプランで計画しています。その時、同級生の男性にも会ってみたいと話題になりましたが、実行できずにいました。

今回、S46年卒同級会計画の誘いがあり、同級生の店に集まりました。暫くぶりなので、「お名前は何?」、「部活は何?」と懐かしく自己紹介し、会合を6回続け、時々、同級生の飛び入り参加があったり、とても楽しい会合になりました。部活以外は交流もなく、お会い出来ることもとても楽しみでした。同級会会場は、遠刈田バーデン家壮鳳に、予約団体名を「雁歌S46会」と名付け、当日は2人で受付担当し、男性19名、女性15名の参加となりました。それぞれが受付に来られると、「何方ですか?」、「暫く」、「学生時代の面影が残っていますね。」の連発で、48年ぶりの懐かしさでいっぱいでした。宴会場は快適にセッティングして頂き、歌詞を配り校歌斉唱。「阿武隈川は洋々と」、「聞けや平和の明けの鐘」と全員で合唱したり、各科部活以外に付き合ひもないにも関わらず、アルコールも入り打ち解けあい、各テーブルを回る方、別席で話し込む方など、懐かしさに浸れた時間でした。後半は、ビンゴゲームでもリーチがでず、大笑いの楽しい時間。

二次会は、部屋組・カラオケ組に分かれ楽しみました。雁歌S46回計画を仰ぎ続行に決定し、次回もお会いする約束をしました。



女子高生にタイムスリップ

寺島 由美

(生活25回・大内支部)

私達は昭和49年3月、伊具高等学校最後の男女別学での卒業生です。男子は農業科と商業科、女子は生活科A・Bの2クラスで、総勢193名でした。私達は生活科A組48名。キャピキャピの女子高生が教室にギュウギュウいたわけですから、それはそれは賑やかな毎日でした。3年間クラス替えはなく、同じ時間を過ごした仲間です。クラス会は卒業後、数年おきに開催していましたが、今回の開催が待ち遠しいとあって、平

成16年からは「毎年やろう。」ということになり、今年で16年連続での開催となりました。毎回20名前後の参加で、だいたい顔ぶれは決まってきたのですが、それでも毎回大盛り上がりとなります。

会場の駐車場から45年前の女子高生にタイムスリップ、部屋に入るのも忘れて大騒ぎ。やつと宴会が始まり、順番に近況報告となりますが、つつい健康や薬、病院の話になつてしまい、必ず誰かがストップを掛けることとなります。まだまだ仕事現役の人、孫の子守、親の介護、地域のお世話をしている人など、64歳の昔の女子高生はとにかくパワフルで、それぞれの役割をしっかりと果たしているようです。家族のこと、同級生のこと、うまい店やうまいもの、地球の環境問題、世界平和について・・・話は尽きず、二次会へと続きます。

毎回写真を撮って、次の年に配るのですが、白髪やシミ、しわが少々増えていても、「みんな変わらないねー。」なんて、お互い気づかないふりをします。たまに去年と同じ服を着てたりして、大笑いなることも。こんな感じで時間一杯おしゃべりに花を咲かせ、パワーを充電して解散となります。これからもみんな元気で、楽しいクラス会を10年、20年と続けていければいいなあと思っています。

母校だより

創立百周年

記念事業に向けて

主幹教諭 阿部 茂 夫

思えば10年前の2010年に創立90周年記念事業も担当いたしました。90周年の時は何から手を付けていいのかわからず、手探り状態で進みました。沢山の同窓会役員さん、PTAの役員さんにお手伝いをいただき、どうにか90周年記念事業を開催することができました。式典は512名の参加でした。講演会はケーヒン代表取締役福祉長の佐々和幸氏に「グローバル化の時代に勝ち残る人に」と題してお話を伺うことができました。また、当時の同窓会長、佐藤一馬さん宅から「もみの木」を寄贈していただき、現在も健やかに育っております。記念祝賀会

はあぶくま荘で行い112名の参加で盛大に開催されました。しかし、東日本大震災が翌年の3月11日に起き、90周年記念事業の実行委員の解散総会が実施できず、文書での解散になってしまったのが、非常に残念でした。

令和元年10月13日の台風19号で伊具高校の農場に甚大な被害があり、11月6日収穫予定のメロン200個も全滅、収穫したばかりの「だて正夢」も半分近

く水没してしまいました。創立百周年記念事業で配れるものがあればと思い、1年前から練習で栽培していたものでした。このような状況の中、無事できるのだろうかと不安がよぎりました。数名の方から開催の相談も受けましたが、個人的判断ではありましたが、「創立百周年記念はやります」と言いました。何とか成功させたいと考えております。

同窓会総会等で創立百周年記念事業の内容は御存じとは思いますが、ここでお知らせできる範囲で、報告させていただきます。

現在学校内で組織している事務局、推進委員会では式典、講演会・アトラクション、記念品祝賀会、記念誌についてはある程度の型は出来ています。毎月の職員会議で議題に出し、話し合いと報告を行っております。今後、実行委員会を開き各専門部の内容を承認していただく予定です。創立百周年記念式典は令和2年11月6日(金)に行い、式典終了後、記念講演とアトラクションを行います。講演は「地域」をテーマにお願いしたいと考えております。式典等は伊具高校第2体育館で行います。祝賀会は場所を変えて、あぶくま荘を予定しております。今回はこの10年の記録ではなく百年の記録を元を実施してまいります。

台風19号による本校の被災状況について

事務室長 水 沼 俊 明

令和元年10月12日から13日にかけて発生した「令和元年台風第19号」により、新川及びその支流(北沢川)が氾濫し、本校川向農場に、上流から土砂や流木が大量に流れ込み、温室や倉庫などの建物、トラクタなどの備品に壊滅的な被害を受けました。その他本校が所有している田んぼ、畑にもかなりの被害を受けました。特に川向農場は、全域(すべての建物)に土砂が流入いたしました(写真参照)。

そこに保管していた備品37種類42品(左ページ参照※)と農産物(トマト、メロン、キャベツ等)がすべて土砂と流木により埋没してしまい、使用又は収穫できない状況となりました。学校としては、今後の自然災害の危険性を鑑み、現在の土地に農学系列施設をすべて復旧することは適切ではなく、今後で

きるだけ速やかに別の場所に必要施設の再建を県教育委員会や文部科学省に要望してゆきます。被災した42の備品についても、国の災害査定を受け、速やかに購入してゆく予定です。

農学系列関係者によると、具体的には、今年度の生徒の授業実習については、プラントを使い野菜や草花の栽培を行っております。また、令和2年度の

4月末から5月上旬にかけての苗販売実習については、中途半端な品質の苗を販売することもできないため、残念ではありませんが、断念しなければならぬ状況です。そんな中、農学系列の生徒・職員は一步一步、復旧に向けて頑張っております。同窓会の皆様も暖かく見守り、また支援を賜ればと思います。

また、丸森町からの要請を受け、県(震災援護室、住宅課)が本校野球グラウンドに応急仮設住宅68戸を建設いたしました。学校としては、少なくとも2年間は野球部のグラウンドを使えなくなることを、平成30年の秋から野球部員おらず現在休部状態ではありますが、野球部の復活・活躍を多くの町民・同窓生が望んでいること、役場周辺に浸水せず、かつまとまった広さの土地がないこと(町民グラウンドは災害ごみ置き場となっております)を踏まえて、また人口減少の影響で全国的に県立学校の統廃合が進んでいる中、本校生徒が丸森町の様々なイベントに参加



し、卒業後、おのおのが住んでいる地域で地域づくりの担い手となり、さらに将来、町の中核となつて活躍する人材を育てたいという町と学校が共有するビジョンをもち、連携して本校生徒による「まちづくりゼミ」を共同で実施する等、本校に対し町内唯一の県立高校として、丸森町よりこれまででも、そしてこれからもなくてはならない学校として様々なかたちでご支援いただいていること、そして何より被災し住むところがなく困っている町民が数多くいることを総合的に検討し、来年度野球部員が入部してきたならば、町民グラウンドを優先的に使用させていただくことを条件に野球グラウンドの「使用承認」をいただきました。どうかご理解いただきますようお願いいたします。

生徒の活躍

◆県総体陸上競技

仙南地区予選会

女子ハンマー投 第1位 3年 南條 有香

◆仙南総体

弓道女子個人 第1位 2年 預幡 彩音

卓球男子ダブルス 第3位 3年 作間 奏斗

第3位 2年 八巻 一斗

◆ENDO杯卓球大会

(福島県卓球協会)

一般女子ダブルス 第2位 2年 和田 妙

◆伊藤園お〜いお茶新俳句大賞

第2位 2年 和田 妙

- ※被災備品
- 1 自吸ポンプ、2 揚水ポンプ、
 - 3 溝掘機、4 管理機（5台）、
 - 5 播種機、6 トラクタ、7 田
 - 植え機、8 除細動機（AED）、

系列紹介「情報系列」

母校は平成11年度から、「総合学科」に学科改変し、現在、「農学」・「機械」・「情報」・「福祉」という、科目選択の目安である4つの系列が設置され、生徒は学習に励んでいます。最終回となる今年度は情報系列を在校生が紹介します。

情報系列の資格取得について

2年 川崎 結

伊具高校の情報系列では、在籍中に様々な資格を取得することが出来ます。取得できる資格は、電卓計算能力検定・情報処理検定・ビジネス文書実務検定・簿記実務検定等があります。

電卓計算能力検定とは電卓を打つ早さと正確さを問われる検定です。主に、乗除の計算や、見取算という縦に並んだ数を足していく計算、伝票に書かれた数を伝票をめくりながら計算する伝票算が出题されます。検定に使用される電卓は一般に市販されている電卓とは違い、早打ちに対応した電卓を使用しています。

情報処理検定ではパソコンの表計算ソフト(エクセル)を使った実技試験と、ビジネス情報に

- 9 粉乾燥機、10 牧草乾燥機、11 温風暖房機、12 温風機（2台）、
- 13 ハウス加湿器一式、14 温室用暖房機、15 自動天窓開閉装置、
- 16 油圧ブレーカ、17 刈払機、18 高圧洗浄動噴、19 温室用遮光自

関する筆記試験があります。

ビジネス文書実務検定も情報処理検定と同様にパソコンを使った実技と筆記試験ですが、こちらはワープロソフト(ワード)を使います。文字を打つ速さを試される速度部門と、文書を作成しその正確性を試される文書部門の2つがあります。

簿記実務検定とは会社等の経理における財産や利益等の計算の技術を習得するための検定です。他の検定に比べて専門的な内容となつているので、資格を取得するのが難しいと言われています。

これらのどの資格も、情報系列の授業で勉強して取得することが出来ます。また、情報系列で取れる資格は、就職活動の際に有利なものになるだけでなく、事務系の仕事を任された時に利用できる技術が身につきます。資格を取るのには難しく、大変なときもあるかもしれませんが、努力すればした分だけ身になると思つて取り組んでいます。

地域イベントに参加して

3年 直井 瑞季

私は平成29年度入学生として、伊具高校に入学し、3年間の高校生活を送ってきました。伊具

- 動カーテン、20 ベルトコンベア、21 ミニバックホー、22 コン
- バイン、23 育苗用フィルムヒーター、24 アーク溶接機、25 焼土
- 殺菌乾燥機、26 背負動力散布機、27 石抜精米機、28 自走動力噴霧



高校の良さは、地域に根ざし積極的に地域イベントに参加し、交流を図っていることだと思います。宮城県産業教育フェアや齋理幻夜、サイクルフェスタを始めとしたイベントに、実際に情報系列の仲間とともに参加しました。

幻夜新聞の作成や地元企業さんと共同開発した商品の販売を行い、人と関わることの楽しさや魅力をPRすることにやりがいを感じました。その経験を経て、改めて地域との強く暖かい結びつきに気づき、感動を覚えました。

1年次・2年次・3年次とすべての年次生が参加するため、先輩がいれば指導やアドバイスをしていたいただき、後輩には自らの経験を伝え、助言・サポートを行う。そして、わからないことがあれば相談し、課題の解決に取り組み。この一連の流れが成り立っていることで、参加したイベントはすべて成功のうち

- 機、29 初摺り機、30 自動計量選別機、31 側面自動換気装置、32 温室複合環境制御装置、33 アルミ減速機、34 コンバイントレー
- ラー、35 畦塗機、36 自動天窓開閉装置、37 ハウス

に終わることができました。積極的に支えてくれる先生や、頼れる情報系列の仲間と活動を送ることができたと思います。

また、昨年の10月に台風で甚大な被害を受けた丸森町は、伊具高校に通う生徒の多くが生活している町です。町内に1つしかない伊具高校の生徒として、何かできることはないかと考え、産業教育フェアで募金活動を行いました。募金と売上金の一部を「復興に役立ててほしい」という想いから、丸森町に寄付させていただきました。

イベントに参加し、町を活性化させるための企画・運営を行う役員の方々を拝見したことで、丸森町職員になりたいという夢ができ、先日無事夢を叶えることができました。

最後になりましたが、この会報に寄稿させていただいたこと、とてもうれしく思います。



◆仙南高等学校美術展

佳作 3年 高田 茜
佳作 3年 平野 愛莉

◆2019 World Electric Vehicle Challenge in SUGO

4輪部門
優勝 電気機械部
第2位 電気機械部

◆ジュニアクラス

第2位 電気機械部
第4位 電気機械部

◆理事長杯

ホワイトキューブ卓球大会
高校生以下の部
女子団体Ⅲ部決勝リーグ
第1位 2年 和田 妙

◆仙南新人陸上競技大会

男子砲丸投
第2位 2年 小野 貴啓

◆県学校農業クラブ連盟

各種大会家畜審査競技会
乳用牛の部 団体
優秀賞

乳用牛の部 個人
奨励賞 2年 井上 美咲

◆高校生ものづくりコンテスト

宮城県大会
旋盤作業部門
優良賞 3年 稲垣 璃久

◆県高等学校家庭クラブ連盟

研究発表大会
優秀賞

◆全日本製造業コマ大戦

学生部門しばた産業
フェスティバル場所
準優勝 3年 佐藤 烈斗

◆県高等学校文化連盟工業

専門部生徒活動成果発表会
奨励賞

会員の声

還暦を迎えて

作 間 利 恵

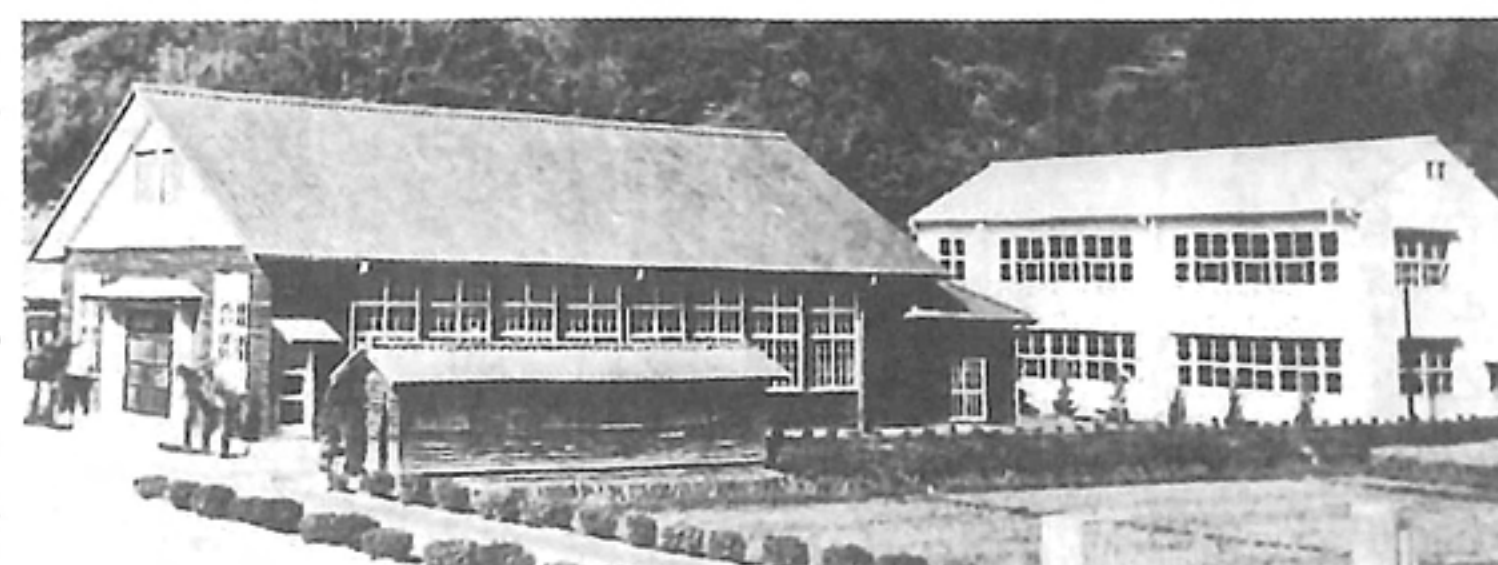
(商業14回・角田支部)

私が伊具高校を卒業してから42年が経ち、会社も定年を迎える年齢に達しましたが、国の政策で65歳まで延長になる会社がほとんどを占めるようになり、団塊の世代がうらやましく感じるこの頃です。そうとは申しませんが、これまでの社会を積み上げてきた先輩たちの実績には感謝しなくてはなりません。

さて、私たちが入学したときは、校舎が建て替え途中で、私たち1年生だけが木造の校舎で夏休み前まで学びました。それから引越した記憶があります。新校舎に入ると再び入学した気分になり、やる気が一時的ではあります。出たような。その後木造校舎は取り壊され、2年生の夏の合宿から使

歴代制服をお貸し下さい

11月6日に母校創立百周年記念式典が行われるのを機に、過去の制服を展示して、母校の歴史を振り返る場を設けたいと考えています。卒業生の皆様の中で思い出の制服をお貸ししてもかまわないという方は、同窓会事務局鈴木英晴（電話 0224-72-2020）までご連絡下さい。



在りし日の講堂と合宿所

えるようになり、私たち運動部は快適でしたが、当時は夏の合宿と言えば、O Bのみなきんがやってくる地獄の練習とやさしい「スイム、まさに天国と地獄

のギャップの経験を味わうのです。現在は先輩・後輩の交流も希薄になり、残念な世の中になったと感じるこの頃です。私も卒業してからは、転勤族のサラリーマン生活で、10年以上地元になかったため、学校も新体育館も見ることがなく過ごしていましたが、子供たちが総合学科になった新しい形の伊具高校に入学、次女とその下の長男と2人がお世話になり、母校に足を運ぶことになり、懐かしく自分が入学するかのようになり、出た思い出があります。次女も卒業して10年以上経ちますが、私と同じ部活をしてくれたので、ちよくちよく学校に顔を出す機会が増え、楽しい3年間を再び味わうことができました。

これまでに同窓会としては、一度しか記憶がありませんが、現在、農業科・商業科・生活科の面々でゴルフをしている仲間を集め、53会として倶楽部を作って年2回ラウンドして楽し

んでおりますが、ゴルフよりも夜の懇親会はもっと盛り上がりです。今後も伊具高校の仲間を増やし、腰が痛い、肩が痛い、首が痛いなどと言いながら、ゴルフを続けて行けたらと思います。そしていつか同窓会が開催できるように声がけをしていきたいと思ひます。

伊具高3年間の思い出

綿 貫 (八幡) 史 子

(生技7回・柴田支部)

私がこの高校に入学したのは、生活技術科があったからです。手芸や編み物をするのが好きだったこともありましたが、進学できることもありましたが、卒業後の進路を決めていたので、友達できて楽しい高校生活を送り、専門学校のことを調べていこうと思ひ入学しました。

しかし、この高校に入学して楽しいだけでなく、色々なことを学びました。

1つは部活動でした。中学3年間、ソフトボール部に入学していましたが、高校でも入部するつもりはなかったのですが、他に入りたい部もなかったため、ソフトボール部に入学しました。大竹先生(現母校教頭先生)の指導のもと、良い先輩方、良い部員達、先生方に出会えました。先輩達は1勝できましたが、私たちは最後の3年の時に1勝もできず、その後ソフト部もなくなってしまうました。私は諦めたらそこで終わりだということ

を学びました。

2つめは諸活動でやっていたAFクラブで、今の農業クラブに入っで活動していたことです。主に他の農業高校と交流会で交流しました。まゆ細工でコサージュを作ったり、文化祭で豚汁を出したり、一般公開でまゆ細工の作り方を教えたことが、今でも楽しい思い出です。良いメンバーに出会い、助け合いと協力することの大切さを学びました。

3つめは資格をたくさん取得できることでした。食物検定は今でも生かしています。ヘルパーは、今、介護の仕事をしているので、当時は3級までしか取得できなかったのですが、実習を受けていたこともあり、ヘルパー2級を取得するときは楽に取得することができたため、今の仕事に役立てることができています。

最後に、私はこの伊具高に入学してかけがえのない友達に出会えました。それに大竹先生には2年間お世話になりました。私にとって忘れられない思い出です。

後輩へ。この学校は資格を取って、今後に役立てられます。挫折することもあります。諦めなければ何度でもやり直せます。その時は高校の思い出を振り返ってみて下さい。

「書と笑顔の軌跡展」を後援

令和元年11月6日から12月8日まで齋理屋敷を会場に、丸森町耕野出身の書道家・宍戸煬竹氏の書道展「書と笑顔の軌跡展」

が行われました。宍戸氏は母校の卒業生ではありませんが、故郷への強い思いから、町を元気づけようと開催することとなり、その趣旨から後援することになりました。

会場を訪れると、出身の耕野地区への思いが込められた書作品のほか、陶芸・写真・ボタニカルアートなどのほかの芸術家の方々の作品も展示されています。

町内では5月にも耕野ふるさと交流センターにて書展が開かれるなど、ふるさと愛が強く感じられ、作品ばかりでなく意欲溢れる宍戸氏の姿勢にも感動いたしました。

(事務局 鈴木英晴)

編集後記

10月12日の台風19号により被災された皆様にお見舞い申し上げます。私事ながら我が家も被災し、ボランティアの方々には後片付けをお願いしました。そのうちのお一人は伊具高校出身ということ、いつしか在学中の思い出話になっていました。

1万4千人を超える卒業生の皆様には、知らないところで助けていただいているのではと胸が熱くなりました。今年はいよいよ創立百周年の年です。穏やかな1年で、百周年記念事業が滞りなく行われていくように願ってやみません。

同窓会事務局

鈴木英晴 池田友利